

## 【今週の注目疾患】

### 【手足口病】

手足口病は主に乳幼児を中心として夏季に流行するウイルス性感染症であり、今夏は全国的に流行を認めている。千葉県内の定点医療機関当たりの報告数は第28週に定点当たり4.00人となり、2013年や2015年の過去の流行時と同様に、報告は急増している（図1）。保健所別でも、県内の16保健所（千葉市、船橋市、柏市含む）の全てで、前週よりも報告が増加しており、千葉市保健所（7.61人）、習志野保健所（6.90人）、印旛保健所（6.31人）が報告の多い上位3保健所となっている（図2）。保健所単位では、第28週に新たに習志野保健所と印旛保健所で警報開始基準値（定点当たり5.00人/週）を上回った。

全国では現在までの検出ウイルスはコクサッキーウイルスA6（CA6）が主となっており、CA6の特徴として、水疱が大きいことや発症後数週間後に爪の脱落が起こることなどが過去の流行時に報告されている。

手足口病の感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、また回復後のウイルス排泄や、感染しても無症状のままウイルス排泄している場合もある。予防策として、手指衛生の励行と排泄物の適切な処理、また水疱内容にはウイルスが含まれているので患者との濃厚接触を避け、遊具を別にするとといったことなどが挙げられる。

図1：2013～2017年第28週に県内の定点医療機関から報告された手足口病の定点当たり報告数

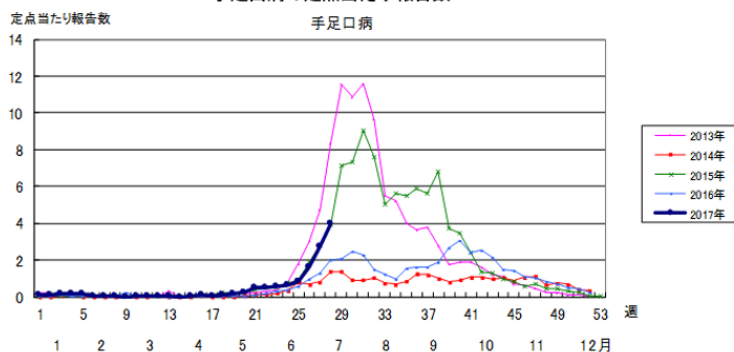
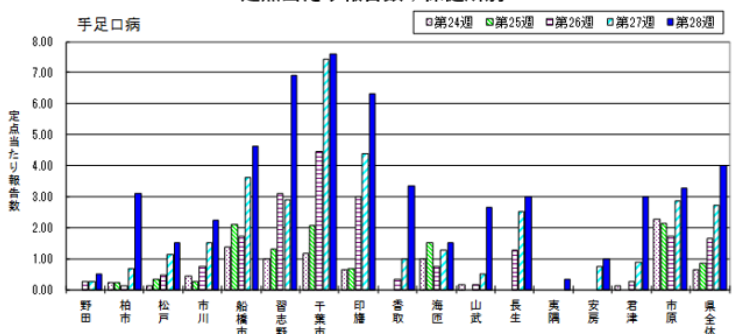


図2：2017年第24～28週に県内の定点医療機関から報告された手足口病の定点当たり報告数；保健所別



### 参考・引用

国立感染症研究所IASR夏の感染症（ヘルパンギーナ/手足口病他）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-sp/510-graphs/4892-iasrgnatsu.html>

国立感染症研究所IDWR 2017年第23号〈注目すべき感染症〉手足口病

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/hfmd-m/hfmd-idwrc/7351-idwrc-1723.html>